

第5次津別町総合計画策定審議会 町の将来像・解決すべき課題など討議結果発表

11月10日の第5回津別町総合計画策定審議会は、部会討議でまとめた「津別の将来像」と「解決すべき課題」について、8部会から発表され、その後、松本策定委員会政策調査員（北海道地域総合研究所コミュニティアドバイザー）から講評を受け、意見交換を行った。原田会長より、「今日の発表会と全体での意見交換を通じ、町の課題と解決方法を議論するための材料と基本構想の柱を絞りこんで行きたい」と挨拶。以下、各部会発表の特徴的な内容と「めざす将来像」の概要を報告します。

【生活部会】発表：山内彬委員・水上隆委員・山田耕司委員・蓮井和一部会長

強く、たくましく、まじまじの暮らしを基本に、「特産品の開発」「自然環境を活かした観光のまち」「エコのまち」「おいしい水の利用」「子供達の伸び伸び出来る元気なまち」の5本の柱にまとめられた。特に、町の優れた企業の技術力や産学官の連携による地産地消を推し進め、特産品の開発と雇用の拡大が訴えられた。また、今回の討議を通じ、業種や年代を越えて何でも話が出来ると仲間づくりや人づくりが必要だと痛感した。計画の柱の一つになることを期待すると報告された。

【保健福祉部会】発表：山内浩子部会長
何をやるにしても、まず「過疎を恐れ



【本岐方面部会】発表：長野三恵子委員
資源や潜在力は、子どもを育てる教育環境にも優れている。特色ある学校づくりや廃校になった学校の有効活用

昔の人の知恵を活かし、郷土の文化や名人・技師の発掘など津別町の文化を伝承。町をつくり興していくことは、よそ者・若者・馬鹿者の力が必要。私たち住民は、馬鹿者になるべき。木については、深く突っ込み可能性を追求していくべき。「町民が安心、安全に豊かな暮らしができることが一番」が結論。過疎に立ち向かいピンチをチャンスになる知恵と、この町を何とかしたいという私達の思いで、活気のある住み良い町にしたいとまとめられた。

【相生方面部会】発表：鍛冶博光委員・勝谷博夫委員・斉藤光雄委員
資源が豊富で潜在力もある。空き家も山ほどある。相生の一番の課題は、相生小学校を活かすこと。受け皿として、STEMづくりが重要。また、我が町は、北見と美幌と相生からの入り口出口の条件を活かした商業戦略、地域情報化に必要な情報を発信し入手できるシステム整備、まちづくりに欠かさないNPO設立支援等の課題があげられた。「高齢者と若い人が平和で共存できる住み良いまち」「働く場所のあるまち」「互いに助け合おうまち」「住民参加型のまち」「ゆつくりとしたまち」「子どもの笑い声が聞こえるまち」「こころ休まるまち」「歩いて暮らせるまち」「ドーナツ型では

ない」気持ちと我が町の豊かな自然や資源というものを明るく、自信を持って、前向きに感じ取り進む姿勢が大切であることが訴えられた。この考え方を基本に、「農業を大切にすまち」「元気な商店街のまち」「売り上手なまち」「安心して暮らせるまち」「子どもの元気な声が聞こえるまち」「明るく元気で互いに協力できるまち」の6本の柱に沿ってその課題が報告され、最後に、「具体策の実現により、皆さんとともに誇りに思う故郷をつくりましょつ」とまとめられた。

【教育部会】発表：竹中博人部会長
優れた資源と潜在力を活かし、「自然を守り、自然を活かした美しいまち」「林業・農業の振興を図り暮らしやすい豊かなまち」「町の施設を有効利用し健康に暮らせるまち」「津別町の環境を活かし、職業人を育て教育を進めるまち」の4本の柱に基づき、5つの課題「観光施設や町並みを整備して魅力ある町にする」「産業を振興して豊かな町にする」「施設の有効利用を図り暮らしやすい町にしていく」「人的資源を活かして生き

なく中心型のまち」の9つのを津別に望むとまとめられた。



【講評】コーディネーター・松本 収
策定委員会政策調査員

まず、自信を持つていることと、困っていることが出ている印象を持った。元気な高齢者や活発な女性達、頑張っている若者がいる。チミケツ湖や津別峠や素晴らしい自然景観、美味しい水、素晴らしい農畜産物と、この町はとっても素晴らしい。一方で、町が暗い。町に活気が無い。中心部が整っていない。そして空き店舗が多い。若者の働く場が少ない。高齢者や女性の交流する場が少ない。情報の発信が少ない。本当に皆さんは良く町を見て考えている。提案だけではなく、決意も伺えた。小さな町、程良い町の大きさだからこそ協力し合いやって行ける町。過疎を恐れず誇りを持ってふるさとを何

がいのある町にする」「環境を活かした教育の推進」が整理され、一人ひとりの関わりで、豊かな暮らしのできるまちづくりを進めたいと報告された。

【住民活動部会】発表：荒川博明部会長
「自然景観の環境に恵まれている」ことを活かし、「住民が安心・安全に暮らせるまち」を目指し、「地場産業の推進による地産地消の普及など若者が住み着く町づくり」を求めて行きたい。「チミケツ湖や津別峠の景観等の魅力を全国に発信」「特産物の地産地消の推進と各分野のチャレンジと業種間交流による商品開発や販売方法の工夫で商店街の活性化方策の検討」「スポーツ合宿の戦略的な見直し」「若者が津別に定住できる方策や仲間が集える中心街づくりに向けた空き店舗利用」「財政収支の均衡と財政力向上による自主自立のまちづくりの展望」などの課題が報告された。

【産業部会】発表：中島浩一部会長
資源・素材を最大限活用し、産業に付加価値を付け、体験・観光・交流を総合的に取り組む「エコ・ツーリズム」による、自然と観光と交流を柱とした「観光から交流へ、交流から定住へ」を目指す。また、高齢化が進行する中で福祉施設等の充実を図り、近隣市町村からの高齢者移住による「福祉の村」を目指し、人口の増・家族等の来町機会の増加、さらに、介護等に必要な就業の場の拡大が図られるのでは。そして、若者の交流の場の充実や情報の発信、企業誘致、津別高校の特色ある科目創設など、若者が住み続けられる町づくりを望む。いずれも、人・

とかしたいとか、高齢化率が高いことに恐れないで、元気で明るい気持ちで進みたい。

問題は、誰がやるのかということ。役場がやるのではなく、今日お集まりの皆さんが、自分ならこれならできるといふことの担い手になること。これが、「町は舞台、町民が主役」ということの本当の意味。皆さん一人ひとりが、新しいアイデアを出して、いろんなことにチャレンジしていくこと。

これからのことについて提起します。一つは、これから始める作業は、10年後の津別をどんな津別にするかを絞り込んでいくことで、あれもこれもという事にはならない。10年後の姿をまとめていく作業を皆さんが行うということ。二つ目は、個々の具体的な事業について、プロジェクトを作って取り組んでいくことで、皆さんがチームリーダーとなって世代間の交流になるチームで仕組みづくりを行うことです。三つ目は、今日のこの場のように普段から情報が集まり、そこに行けばいろんな情報が手に入る場所を皆さんの手で中心街に10年後の津別を作るためのセンターの立ち上げを是非構想していただきたい。

最後に、10年間意志を持続させ丁寧に行うことは、難しいこと。本当に歯を食いしばって10年後に形とするには、仲間を作ること。テーマに沿って仲間を作り、具体的な問題を一つひとつ処理していく仕組みを作れば、必ずや、目指すものが実現していくのではない

自然・物・産業などの資源を連携させたストーリーが大切。住み続けたい・住んでみたい・行ってみたい・寄ってみたい・帰ってみたい町づくりを目指すと報告された。



「オホーツク圏で、自然体験、地元の人との交流を満喫できる愛林の町つべつ」ということに行き着いた。「見るつべつ」「1200年のミスナラ。これは平安時代からあるもの。チミケツ湖は秘境の秘境でヒメマスの原産湖。津別峠は360度の展望。最上の桂の巨木と一町分池も見所。東岡の自然景観の素晴らしい。」体験するつべつ「農村体験・自然体験・釣り・クワカタ取り・木登り・雪かき体験など。「食するつべつ」地域の食材の有効利用。有機農法野菜やオーガニック牛乳やチーズ、地場産加工品の開発など津別の美味しいものを売りに。

か。小さな町だからこそやれることがいっぱいあるという前向きな姿勢が心強く思った。

【主な意見交換の内容】
その1 商店街の活性化に向けて津別の自然を売り物とした空き店舗の有効利用につなげてはどうか。

その2 痛切に商工会は気持ちを入れ替えなければと感じた。秋祭りでは、自分の作品を並べるなどいろんなことの出来る人が津別にはいる。空き店舗の利活用は可能と考える。
その3 冬場の健康づくりに向け、Kニットの後を活用できないか。ペレットストーブを置くなど効果的な展示にもなる。

その4 子ども達に津別の町を愛してもらわなければならない。そのための教育をどうするかを考えて取り組んでいくべきと思っつ。
その5 物事を好きになるといふことは、感性だと思っ。触れざすことが大事。体験の出来る場があるが、危険、誰が責任を取る、ということから周りの環境が子ども達を寄せ付けないでいる。などの意見が出されました。

【次回の第6回策定審議会について】
日時 12月17日(水曜日)18時30分、場所 津別町中央公民館

公開開催の策定審議会です。町民皆様の多数のこ来場をお待ちしています。なお、これらの計画づくりの概要などは、引き続き広報や町のホームページに掲載していくこととしています。